

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 2月 25日

事業所名 Kids Labo123谷町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		就学前の利用者と就学生とに分け各々に応じたトレーニングプログラムを提供している	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数によって多めに配置している。	子どもの数に留まらず、いろいろの個性があるので適切であるかどうか難しい面がある
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ホワイトボードやカードの活用(活動の流れなどの見える化)。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		こまめな換気や清掃で清潔な空間に努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		随時打合せや振り返りを行い、改善につなげている。	目標を具体的なものにし、職員間の情報共有・参画を進めていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価結果をもとに、保護者の意向を把握して改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPで公開。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		相談支援員さんなど外部の方が来所された際に、活動内容等を説明し、意見を求めていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修を積極的に活用している。	研修の回数増及び時間の確保が課題である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントや保護者への聞き取りを行い、支援計画を作成。	よりいいアセスメントを行い、ニーズや課題の把握に努める。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	独自のチェックリストを活用している。	標準化ツールについては、今後検討したい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		具体的な支援内容を記載している。	家族支援の観点については、もっと具体的な内容となるよう見直していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎回工夫して活動に取り組んでいる。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別と集団を組み合わせ合わせた活動内容としている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			振り返りや記録の共有の時間の十分な確保が課題である。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報や連絡帳を活用。支援の改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との面談を取り入れている。	計画を立て、早め早めに行っていく。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		開催の際は、児発管が参加。	人員に余裕があれば、児童指導員も参加する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		対象児童に関する連携会議に積極的に参加している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	関係機関との直接の連携はないが、保護者と連携している。	必要に応じて積極的に連携していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		すぐに連絡できるようにしているが、まだ実際に対応したことはない。	必要に応じて積極的に連携していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		電話や文書できめ細かく情報交換共有。また必要に応じて、保育所に出向いている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	十分できていない。	送迎の際などに情報共有を図る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		エルムおおさかななどの研修に参加。	専門機関等との連携やより積極的な研修等を進めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	できていない。	コロナ感染予防等もありできていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		開催の場合は、児発管が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		直接話したり連絡ノートを通じたりして情報の交換を行い、共通理解を図っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペア・トレーニングはできていないが、研修等の情報発信を行っている。	家庭での支援の在り方について発信していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧な説明を心がけている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談を行って説明し同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて行っている。	定期的に進めていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ感染予防等もありできていない。検討課題である。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時相談等には丁寧に対応するよう心がけている。	より相談しやすい体制づくりを進める。また、職員一人一人の対応力の向上を図る。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	定期的な発行ができていない。	定期的な発信に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		配慮している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		直接話したり連絡帳等で伝えたりしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		行事への招待等は難しい問題がある。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを策定し活用している。	保護者への周知が十分できていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。特におやつに留意している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を記入し共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待につながらないように、適切に対応している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		事例はないが、説明や記載等について改善していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。